

〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップ

# 教員間の連携

「なぜ、教員間の連携が必要なのでしょう？」  
「どのような場面で、  
教員間の連携が必要でしょうか？」

周りの人と考えを交流してみましょう。



# 1 教員の仕事とは

## 【「校務」とは】

学校の仕事全体を指すものであり、学校の仕事全体とは、学校がその目的である**教育事業**を遂行するため必要とされる全ての仕事

## 【「職務」とは】

「校務」のうち職員に与えられて果たすべき任務・担当する役割



学習指導



学級経営



生徒指導

## 2 教員間の連携において求められる力

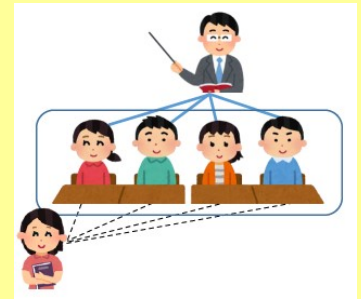
- 教育者として、強い使命感・倫理観と、子供への深い教育的愛情を、常に持ち続ける教員
- 教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員
- 学校づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員
  - ① コミュニケーション能力（対人関係能力を含む）
  - ② 組織的・協働的な課題対応・解決能力
  - ③ 人材育成に貢献する力

### 3 教員間の連携

#### (1) ティーム・ティーチングでの教員間の連携

##### 【ティーム・ティーチングで共通理解する内容】

- ① 児童生徒の個別目標
- ② 授業展開
- ③ 役割分担
- ④ 展開や活動内容、個別目標を考えたティーム・ティーチングの指導・支援内容の確認
- ⑤ 評価（児童生徒の姿、教師の手立て）



|          |                                                                                                                                                                                     |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 効果       | <ul style="list-style-type: none"><li>① 児童生徒の実態を、多くの視点から理解することができる。</li><li>② 個々の教師の専門性や特性を生かし創造的な授業を実施することができる。</li><li>③ 学習グループを多様に編成することができ、一人一人の能力や特性に応じた指導が可能になる。 など</li></ul> |
| 陥りやすい問題点 | <ul style="list-style-type: none"><li>① 教師が他者に依存的になり、児童生徒への働き掛けが滞る。</li><li>② サブとなる教師の働き掛けが児童生徒の補助や管理だけに終始する。</li><li>③ その場かぎりの対応となる。 など</li></ul>                                  |

## (2) 学年経営における教員間の連携

### 【協働体制を基盤とした学年経営】

学年の教師は、各学級の特性や指導上の課題を把握した上で、学年主任を中心に意見交流や情報交換を深め、共通理解の上に指導をしていく体制を確立し、見通しを持った計画の下で学年の目標を達成していくことが大切です。

指導方針や指導内容を統一する

児童生徒の指導に必要な情報の交換をする

学年の教師間の連絡・調整を円滑に行う



年間指導計画に基づき授業進度を調整する

同学年教師による研修体制を確立し互いに啓発し合う

学年の教師が相互に協力し合える体制を実現する

### (3) 学級経営における教員間の連携

#### 【開かれた学級経営】

児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばしたり、学級内で起こる問題を解決したりするためには、他の教師と連携・協力しながら指導に当たることが必要です。そのためには、開かれた学級経営を心掛け、同学年はもとより、他学年の教師や養護教諭にも広く助言を求めるなど、校内の協働体制を確立することが大切です。



## (4) 生徒指導における教員間の連携

### 【チーム学校による生徒指導体制】

- ① 一人で抱え込まない。
- ② どんなことでも全体に問題を投げ掛ける。
- ③ 管理職を中心に、ミドルリーダーが機能するネットワークを作る。
- ④ 同僚間での継続的な振り返り（リフレクション）を大切にする。



「生徒指導提要」文部科学省（令和4年12月）



## 4 同僚性

- 組織的かつ効果的に生徒指導を実践するためには、**教職員同士が支え合い、学び合う同僚性が基盤となる。**
- 学級・ホームルーム担任中心の抱え込み型生徒指導から、多職種による**連携・協働型生徒指導へと転換していく際に重要となるのは、職場の人間関係の有り様である。**

「生徒指導提要」文部科学省（令和4年12月）

**互いに支え合い、成長し高め合う関係**

# 演習

教員間の連携について、「今後の取組に生かそうと思ったこと」や「指導教諭に聞いてみたいこと」などを記入して、交流しましょう。

【チーム・ティーチング】

【学年経営】

【学級経営】

【生徒指導】